

出題のねらい

㊦は、萩原葉子『父・萩原朔太郎』からの出題です。題名からわかるとおり、偉大な詩人の娘が書いた回想記です。独特の感性をもった父親を、愛情をもって観察する視線に特徴がある文章です。問題文もそんな一節から選びました。したがって、父親の気持ち、筆者の気持ちを読み取ることが大切になってきます。

㊧は、山本貴光『記憶のデザイン』からの出題です。「外部記憶」や「内部記憶」というキーワードをもとに、どうすればインターネットを使いこなすことができるのかを論じています。内容としては難しくありませんが、漢字や語彙についての基礎的な力や、そして文脈を丁寧に読み取る力は必要です。ぜひ普段からこうした力を養うことを心がけてください。

㊦

【解答】(50点)

問一	a 廊下	b 煙	c 臆病	d 緊張	
	e 幽霊				(2点×5)
問二	i イ	ii エ	iii ア		(2点×3)
問三	イ				(5点)
問四	案の定				(5点)
問五	ウ				(5点)
問六	来客に筆者が「父は不在だ」というウソをついていないことがわかったから。				(7点)
問七	父の多忙を思いやりもせず長居をする来客と、それをはっきり断れない弱気で馬鹿正直な父に対するくやしさ。				(7点)
問八	ウ				(5点)

【解説】

問一 漢字の書き取りです。どれも常用漢字で日常的に使われる言葉ばかりですから、五問中四問は正解しておきたい。日頃から簡単な漢字を練習しておけば取れるはずですが、実際は二問から三問ほどの正解率でした。これは、努力すれば漢字の得点で差をつけて合格できる、ということの意味しています。今回は「臆病」が「憶病」になっている例が非常に目立ちました。また、字は丁寧に書きましょう。雑に書いた答案は正解かどうかわかりづらく、得点にならない例がいくつかありました。

問二 擬態語の多い問題文ですから、空欄補充の設問にしてみました。意外に難しかったようです。「ii」が要所になりました。「ア」を選んだ例が目立ちました。女中が、来客を断る、という仕事を果たせず、また同じ場所に戻るのですから、「エ」が最も適当です。これが正解なら全問正解できるでしょう。

問三 「イ」か「ウ」か難しかったかもしれませんが、けれど、「ウ」では、父親を批判するニュアンスが強くなります。文章全体から、筆者の父親思いの視線を読み取って、より適切な「イ」を選んでください。

問四 正解箇所を見つけづらく、これは難問になるかと心配していましたが、思ったより、みなさんよくできていました。予期していたことが実際に起こったときの言葉遣いですから、「案の定」が正解ですね。

問五 これはよくできていました。「イ」か「ウ」で迷うかもしれませんが、でも、筆者は自分の「浅はかな考え」を恥ずかしく思ったのです。父親の怒りにショックを受けたわけではありません。それなら「ウ」が正解ですね。

問六 大変難しかったようです。文脈を読み取れていない誤答がたくさんありました。まず、筆者の父が「馬鹿正直なほどウソをつけない」ことが大前提です。そして、彼は筆者の言葉を聞いて「安心」したのです。その言葉は、父親が不在だというウソを筆者が言わなかった、というものでした。そこまで読み取れれば正解は見えてくるでしょう。けれど、正解は見えていても、うまく解答を書けずに減点されてしまう例がたくさんありました。書くべき内容は、「筆者の発言に安心したこと」、「父が不在だとは筆者は言っていないこと」、「筆者はウソを来客に言っていないこと」です。文章力を磨きましょう。

問七 字数の多い問題ですが、設問の指示どおりに書けばなんとかなるはずですが、実際は減点される例が非常に多かった問題です。設問を読めば、書くべき内容は「来客に対するくやしさ」と「父親に対するくやしさ」のふたつです。しかし、答案の多くが、どちらかひとつしか書いてありませんでした。また、「来客を断れなかった筆者自身に対するくやしさ」を答えてしまった例も多かったです。

問八 文学史の問題です。三分の一ほどの正解率でした。必ず、と言っていいほど文学史の出題はあるので、勉強しておきましょう。超有名な文学者の常識しか出題しないので、学校で使う副読本や便覧を眺めておけば充分です。萩原朔太郎といえば「ウ」ですね。

## 公募制推薦入試／国語(前期 A日程)



【解答】(50点)

問一	a 過程	b 搭載	c 契約	d 為替	
	e 知覚				(2点×5)
問二	i ウ	ii エ	iii イ	iv ア	(2点×4)
問三	① イ	② エ	③ ウ		(2点×3)
問四	イ				(2点)
問五	エ				(2点)
問六	現実の世界やそれに対応する言葉				(3点)
問七	玉石混交の				(2点)
問八	外部記憶装置を使って情報を短期記憶に入れても、自分の内部記憶がそれを理解できるようになっていなければ意味がないので、外部記憶装置は内部記憶の代わりにならない。				(6点)
問九	外部記憶装置を人間の脳に見立てているから。				(3点)
問十	ア ×	イ ○	ウ ×	エ ○	(2点×4)

### 【解説】

問一 漢字の問題です。b「搭載」は「投載」「塔載」「登載」、d「為替」は「替為」などの誤答が目立ちました。

問二 文章の論理展開を理解した上で接続詞を埋める問題です。「i」と「iv」を逆に解答する答案がちらほらありました。

「i」は、「①の「知りたいが不明のことがある」のが出発点だった」から「①の問いに答えるために検索をする」へと文章が展開していますから、順接の接続詞「そして」が入ります。

「ii」は、空欄の後ろに「それらの多くは、ある学問領域について一定のトレーニングを積んだ人が読めるように書かれているからだ」とあります。「からだ」という原因・理由を表す表現があることを考えれば、正解は「なぜなら」しかありません。

「iii」は、カフェを検索する場合を例に挙げ、「簡単そうだと書いた上で「もしいまいる場所が旅先で、母語も通じず、読み方も分からない言語が使われている土地だとしたらどうか」、つまり母語の通じない外国なら一見簡単そうなのが難しくなることを論じていますので、ここは逆接の接続詞「だが」が入ります。

「iv」は、「レシピの読み解きにしろ、プリンターのトラブル解決にしろ、GPSの理解にしろ、過去に練習したり理解したりしたことをもとにして、検索した結果を読んで理解できるわけである」から「長期記憶を土台として、いま目にした検索結果を短期記憶に

入れて対処している」へと文章が展開していますが、これはどちらも短期記憶と関わる対処法について述べていますので、正解は「言い換えれば」となります。

問三 語彙を問う問題です。①と③をまちがえる答案が目立ちました。けっして難しい問題を出しているわけではありませんので、知らない言葉に出会った時には、普段から意味を調べる習慣をもつことが大切です。

①「首尾よく」の「首」「尾」はものごとの始めと終わりの意味です。そして「首尾よく」は始めと終わりがうまく対応することを指しますので、正解は「うまいぐあいに」です。

②「芳しくない(かんばしくない)」は、「芳しい」の対義語です。そして「芳しい」は状況などが好ましいという意味ですから、この問題の正解は「状態がよくない」。参考ながら、「芳香剤」という言葉もありますね。

③「もっぱら」は漢字で表記すると「専ら」となり、他はさしおいて、ある一つのことに集中するさまを意味しますので、正解は「主として」となります。

問四 これも語彙を問う問題です。芋は地中で蔓(つる)でつながっていますね。実際、蔓をつたっていくと仲間の芋同士が次々と見つかります。このことから「芋づる式」は「関連する多くのことが次々と現れること」という意味になります。

問五 問五以降はすべて内容理解に関する問題です。この問五では空欄Bに入る言葉を問うていますが、ここでヒントになるのは空欄のすぐ後ろにある「さえ」という表現です。「さえ」にはいくつか意味がありますが、ここでは比較的簡単なものごとを例として挙げ、その簡単であるはずのことがらが実現しないことを指します。本文に従えば、「内部記憶をもっていなかったら」、本来すぐできるはずのBのことがらも「覚束ない」(できるかどうか確証がもてない)という流れになっていますね。ではア～エの選択肢のうち、最も簡単であるはずの内容はどれでしょうか。このように丁寧に表現と論理を整理することで、ここでは「検索語を思いつく」という正解を導きます。

問六 この問題では「内部記憶」について問うているわけですから、素直に「内部記憶」という言葉を本文から探しましょう。このうち「記憶」する対象について述べているのは「もしそうした現実の世界やそれに対応する言葉について、内部記憶をもっていなかったら」という箇所しかありません。このように設問に出てくる言葉がそのままヒントになります

ので、本文を読む時に始めから注意をしておくことをお勧めします。

問七 「この難問」の指示内容を答える問題ですが、「この」という前置詞があることから、当然正解は傍線部より前になります。そしてここでは、「自分がよく理解していないことがらについて、ネット検索で学ぶ」ことに関連し、難問となる具体的内容は何かを問うていますので、傍線部の一つ前の段落に「そこでネットを検索してみると」という言葉がヒントになりますね。したがって正解は、この一つ前の段落から「難問」に該当する一文を探すことで導けばよいということになります。筆者の言う「玉石混交の検索結果から、適切な説明を選ぶにはどうしたらよいか」という難問は、インターネットを使う場合、実際に遭遇することがあるのではないのでしょうか。なお本文を抜き出す時に、まちがえて「玉石混合の」と書く答案がちらほらありました。こうしたところで減点になるのはもったいないので、ぜひ注意してください。

問八 本文に、「いくらネットという外部記憶装置に膨大な情報やデータがあり、それを検索で見ると短期記憶に入れることができたとしても、肝心の自分の内部記憶、つまり長期記憶がそれを理解できるようになっていなければ意味がなかった。」とあります。したがって外部記憶装置があっても、内部記憶の代わりにはならない、というのが筆者の結論です。ですからここに引用した箇所を要約し、筆者の結論を書き加えることで、正解となる文章をまとめます。

問九 傍線部の直後の本文に「コンピュータをいわば人間の脳に見立てて「記憶 (memory)」と呼ぶ」とあります。人間の脳と比較して述べているわけですから、文字通り、人間以外のものを擬人化しています。

問十 「ア」は、設問の文章に「あらゆる文献等が理解できるようになる」とある点が誤り。本文には「母語を読めるからといって、なんでも読めるわけではないのだ」とあります。関連して筆者は、インターネット上の解説の中には「ある学問領域について一定のトレーニングを積んだ人が読めるように書かれている」ものがある、したがってそれらは「トレーニング抜きには理解しがたい」とも述べています。なお問十で最もまちがいが多かったのは、この「ア」です。

「イ」は、本文に「カフェを検索するということも、実際にはその土地に「カフェ」と呼ばれる店があることを経験によって知っており、それを「カフェ」と表記するのだということを知っているからこそ可能に

なる、という様子を確認したかったからである」とありますので、その土地や言語に関する知識（「現実の世界やそれに対応する言葉」）を記憶しておかないと、カフェを検索することすら簡単にはいかなくなる場合がある、したがって内部記憶は重要だということになるので、設問の文章と対応します。

「ウ」は、設問の文章に「長期記憶の土台となる外部記憶装置」とある点が誤り。本文には「長期記憶とは内部記憶であり、短期記憶とは外部記憶装置などから一時的に知覚を通じて頭に入れたものだ」とあります。コンピュータなどの外部記憶装置が、人間の長期記憶（内部記憶）の土台となっているわけではありません。

「エ」は、本文にレストランの電話番号や今日の外国為替市場、郵便料金、電車の時刻などは「知りたいときに検索すればそれで用が足りる」、「ネット検索で調べがつけば、それで十分用が足りる」とありますので、設問の文章と対応します。